

田尻だより

平成 21 年

7月 号

Vol. 76

次の田尻便りは
8月1日発行です。

暑き本番、蝉の声が

にぎやかになってきました。田尻では梅雨入りしたもののなかなかまとまった雨が降らず、田んぼは乾きがちで、畑は水やりに追われる毎日です。

一方、7月は生き物が一気ににぎわう季節。生き物調査もいよいよ本番を迎えます。

6月23日の早朝、門田さんが田んぼで飛見!



この辺りで鹿が見られるのは、とても珍しいことです。

(バラタクソノミスト)

6月13日、NPO法

人田んぼの岩淵先生に誘われて、田んぼの生物多様性バラタクソノミスト養成講座に参加しました。バラタクソノミストとは、準自然分類学者のことです。動植物を採取、分類、整理し、研究の補佐や専門家との連携を行える能力を持つ者。農家がこの技術を持つことで、総合的な環境保全の実現を目指します。

岩淵先生から電話で「参加してね」と誘われただけだったので、いつものように気楽に参加したところ、北海道大学と宮城教育大学との共催という、本格的な講座でびっくり。

講座中、突然の雷雨に見舞われるというアクシデントはありましたが、先生方の人柄そのままに終始和やかな雰囲気で行われ、講座修了後には立派な修了証まで頂きました。

ぬまこくらぶの伊島さんによると、加護坊山にはニホンジカとニホンカモシカがいるとのこと。



今回見られたのは、若いニホンジカでした。

未 暦 ～こめごよみ～

6月13日 田んぼの生物多様性バラタクソノミスト養成講座に参加しました。

6月26日 北海道視察研修へ行きました

このところの好天で、田んぼの稲は順調に生育していますが、農家の心遣いとしてはそろそろまとまった雨が欲しいものです。来月は生き物調査が本格的に始まります

検日記

6月26日から3日間、農家のおっちゃん達をお連れして北海道へ視察研修に行きました。主な行き先は恵庭市のえこりん村と夕張市の花畑牧場生キヤル工場です。

えこりん村には巨大な牧場、レストラン、ガーデンパーク、心ゆみず田んぼなどがあり、

その美しさ、壮大なスケール感、環境配慮等の取組みにひたすら感動しました。夕張では、財政破綻した町に400人もの雇用を生み出した生キヤル工場に、大勢の観光客が訪れる光景を見て、心から感激しました。

農と食の連携は、これからの日本の大きな光となるのだと実感させられました。